

2024年5月期 第2四半期 決算補足説明資料

2024年1月



 **室町ケミカル株式会社**
(東証スタンダード 証券コード：4885)

1. 会社概要

2. 2024年5月期第2四半期 決算概要

3. 取り組み状況・トピックス

4. 業績予想

5. 中期経営計画の進捗状況

6. 参考資料

会社概要



会社名	室町ケミカル株式会社 (MUROMACHI CHEMICALS INC.)
代表者	代表取締役社長 青木 淳一
設立	1947年7月 (創立: 1917年1月)
資本金	143,172千円
従業員	205名 (パート・臨時従業員を除く) 2023年5月末現在

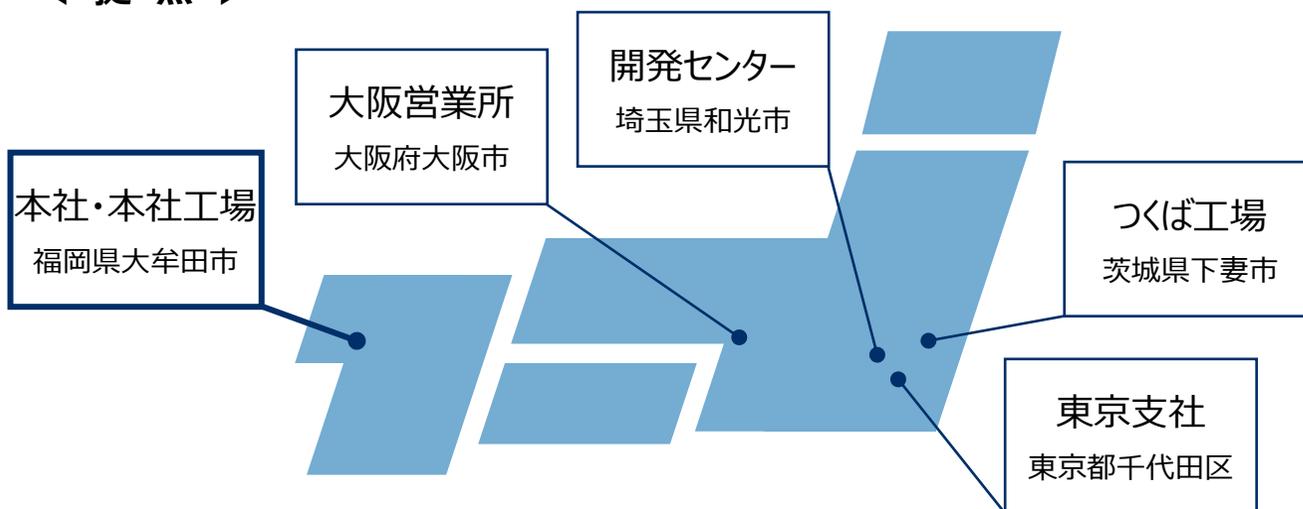


創立当時 (1917年頃)



大牟田市 本社工場

< 拠点 >



「医薬品」「健康食品」「化学品」の3事業

医薬品事業

医薬品原薬（薬の有効成分）の
製造・販売



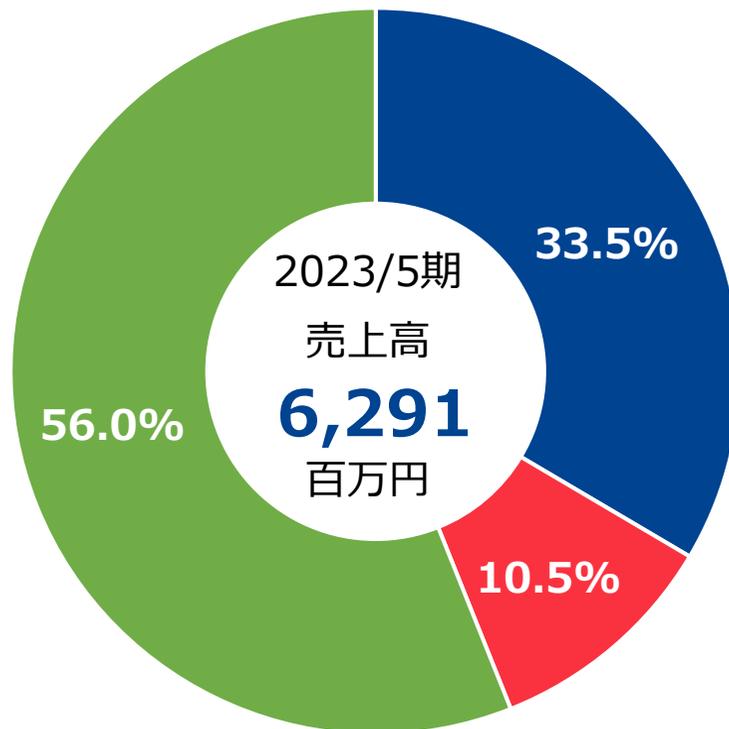
原薬の製造



原薬の精製・異物除去



海外原薬の輸入販売



化学品事業

液体から不純物を取り除く
液体処理製品の販売・加工



イオン交換樹脂



分離膜



水処理装置



イオン交換樹脂再生設備

健康食品事業

スティックゼリータイプなどの
健康食品の企画・製造



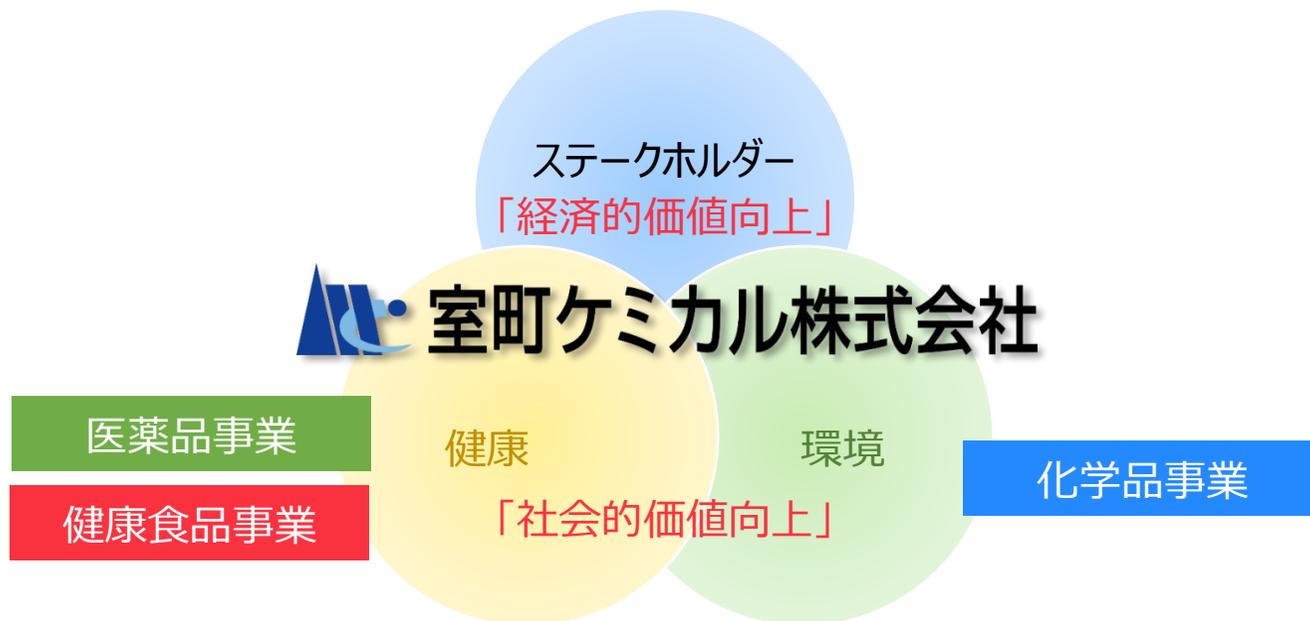
スティックゼリー



Tパウチゼリー

< パーパス >

「健康」と「環境」をテーマに、社会へ貢献する



< 経営理念 >

私たちは人々との出会いを大切にし、
常に新たなチャレンジと実現化の努力により生きがいと豊かさを提供し、
健全な発展を通して社会に貢献する経営を目指します。

2024年5月期第2四半期 決算概要

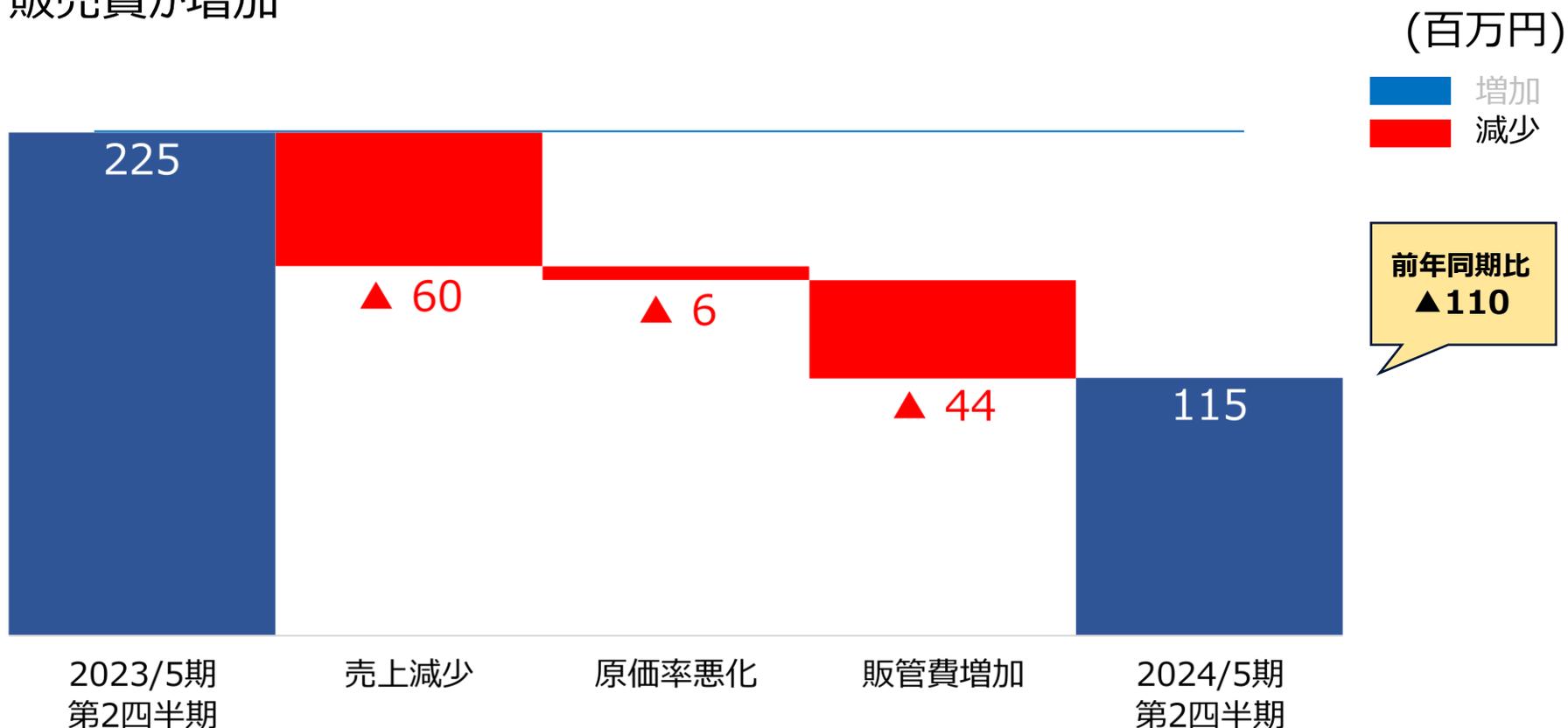


- 売上は前年同期比で減少し、期初の想定をやや下回る
- 原材料費の高騰、工場稼働率低下や売上商品構成の変化により原価率はやや上昇
- 販売費及び一般管理費については当初計画通りで推移

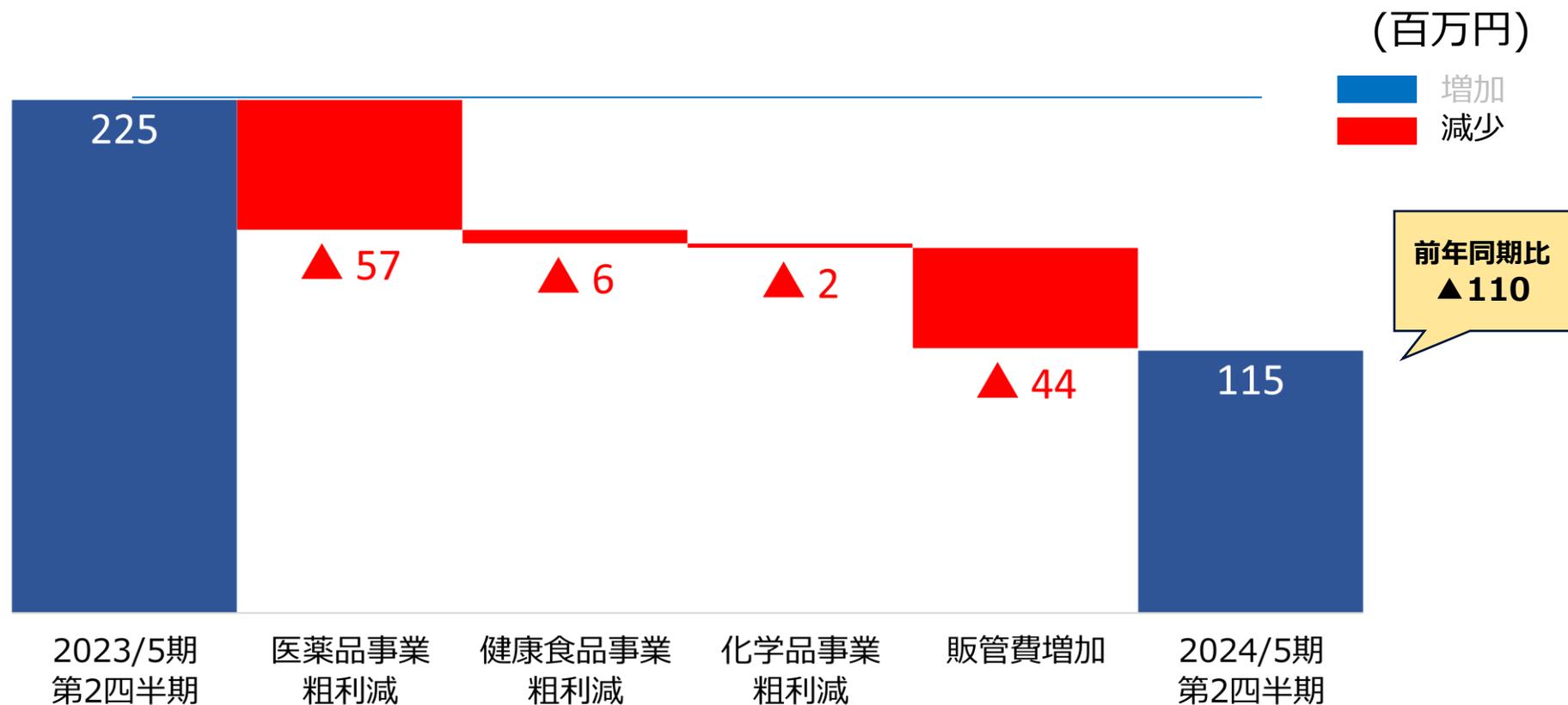
(百万円)

	2023/5期 第2四半期		2024/5期 第2四半期		前年同期比	
		構成比		構成比		増減率
売上高	3,121	100.0%	2,912	100.0%	△208	△6.7%
売上原価	2,226	71.3%	2,084	71.6%	△142	△6.4%
売上総利益	894	28.7%	828	28.4%	△66	△7.4%
販売費及び 一般管理費	668	21.4%	712	24.5%	+44	+6.6%
営業利益	225	7.2%	115	4.0%	△110	△48.8%
経常利益	207	6.7%	110	3.8%	△97	△47.1%
当期純利益	149	4.8%	93	3.2%	△56	△37.5%

- 医薬品事業(主に輸入原薬)の売上減少
- 原価率の悪化によって、売上総利益が減少
- 研究開発費の増加に加え、海外営業の再開や展示会への出展が増えたことにより、販売費が増加

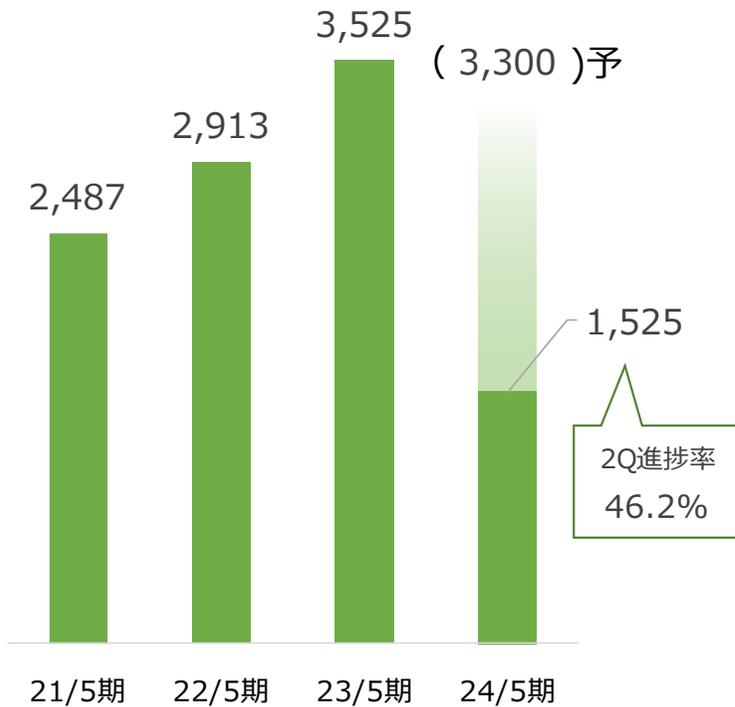


- 医薬品事業は、輸入原薬の売上減少により利益減
- 健康食品事業および化学品事業は、売上は順調も原材料費・人件費の上昇と売上構成目の変化により原価率が上昇



売上高	(前年同期比)	営業利益	(前年同期比)
1,525百万円	(85.7%)	198百万円	(69.9%)

■ 売上高推移 (単位：百万円)



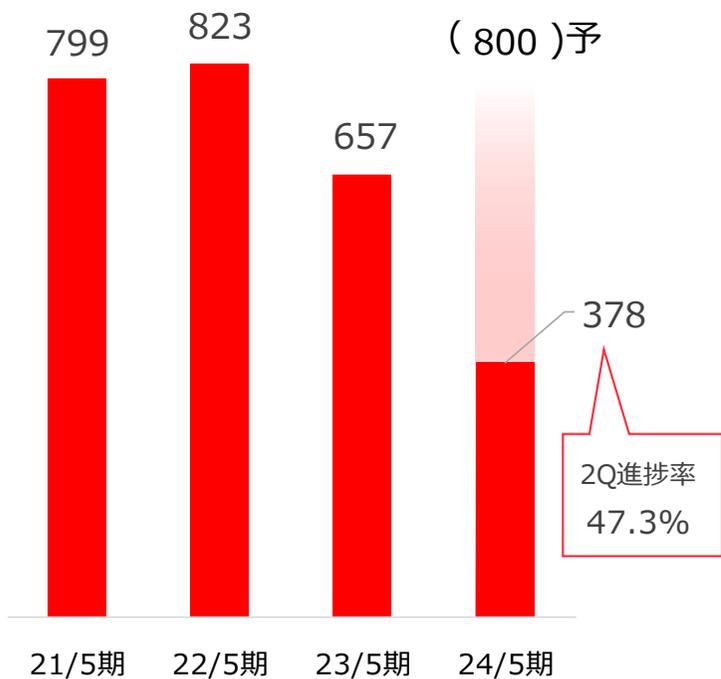
- 既存品の成長と複数の新規合成品目立ち上げにより、自社製造品の売上が増加
- 輸入原薬は、主力の抗てんかん薬用原薬の一時的な需要増が収束し売上減少
- 開発費・販売費を積極的に投下中
- 新規の輸入原薬の取り扱いに向けた活動と、合成・精製等の自社製造案件の立上げに尽力する

■ 商材別売上高 (単位：百万円・■：前期 ■：今期)



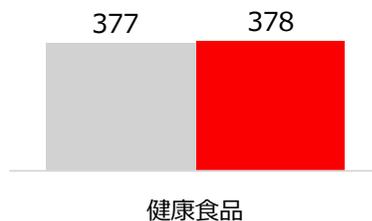
売上高	(前年同期比)	営業損失	(前年同期)
378百万円	(100.4%)	▲ 27百万円	(▲ 38百万円)

■ 売上高推移 (単位：百万円)



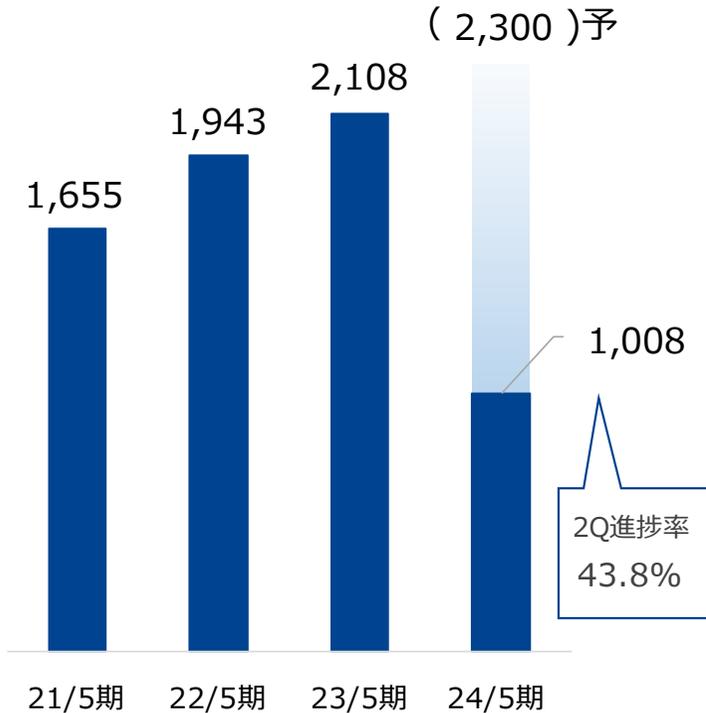
- 一部のOEM主力品の売上が不調も、新規OEM品の上市により売上をカバー
- 原材料費の高騰およびOEM品の売上商品構成の変化等により原価率上昇も、2Qの工場稼働率向上により製造原価が改善傾向
- 製造原価低減策を継続するとともに、手元にある確度の高い開発案件を早期に受注する

■ 商材別売上高 (単位：百万円・■：前期 ■：今期)



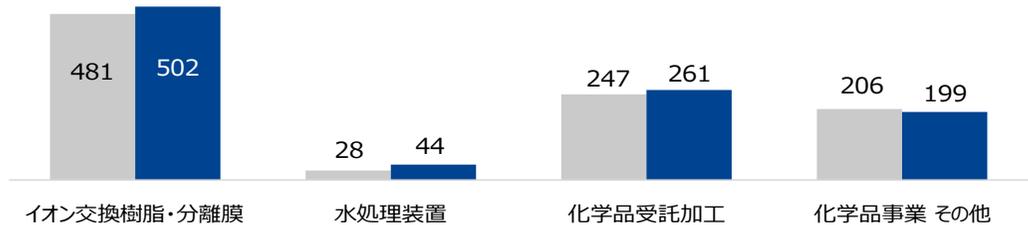
売上高 1,008百万円	(前年同期比) (104.5%)	営業損失 ▲ 55百万円	(前年同期) (▲ 19百万円)
-------------------------------	----------------------------	-------------------------------	----------------------------

■ 売上高推移 (単位：百万円)

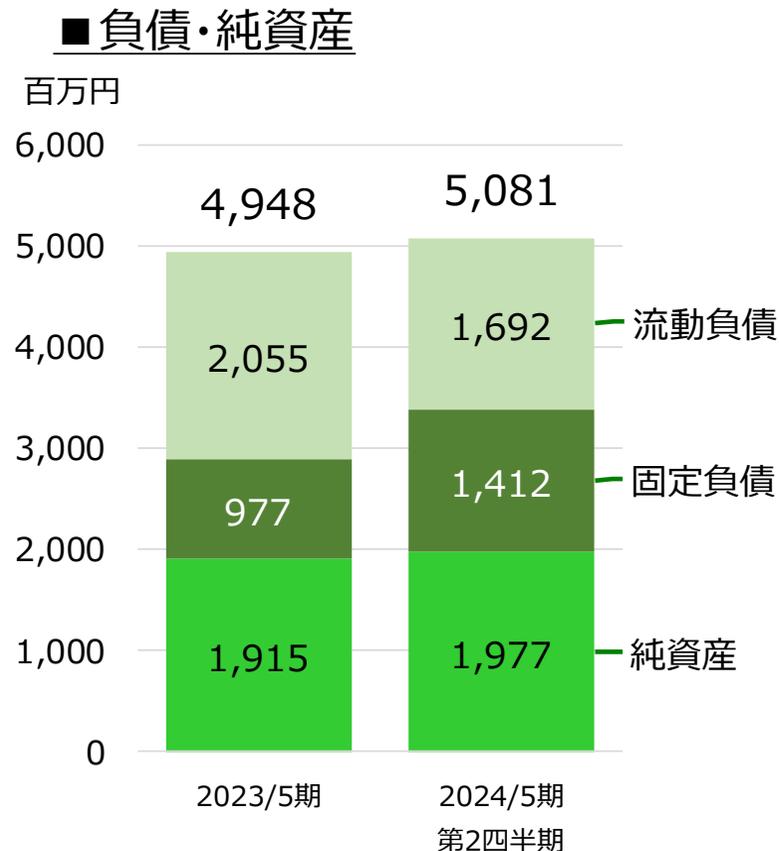
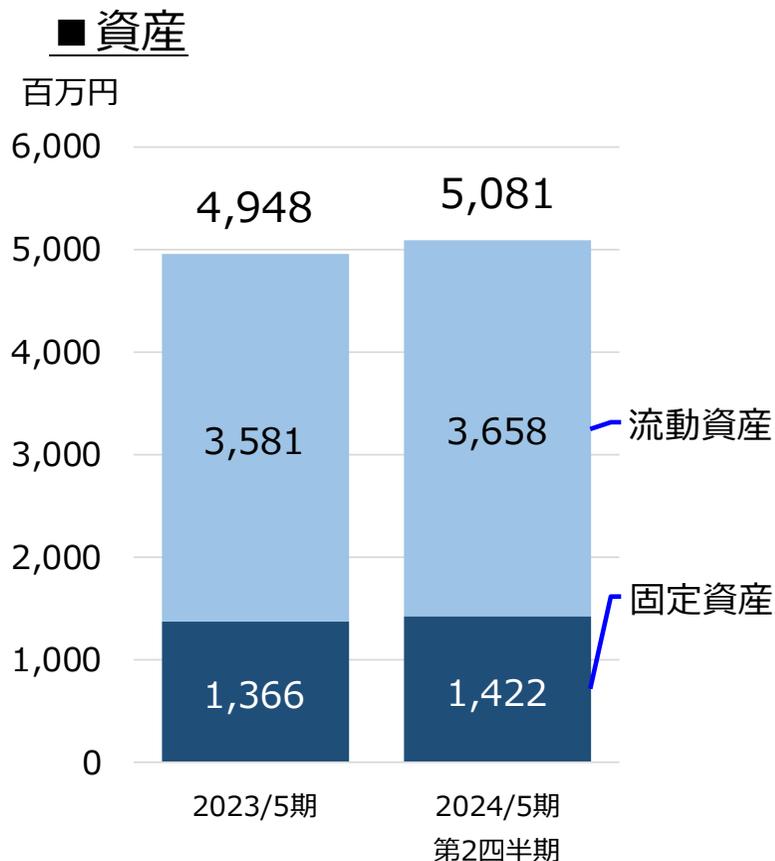


- 主力のイオン交換樹脂は仕入販売品の販売増（触媒用樹脂の新製品等）により増収
- 装置の売上は、当期末納品予定の大型案件に対する収益認識基準の適用による計上を含む
- 高性能イオン交換樹脂への注目度の高まりや排水規制の強化等の追い風を受け、開発活動を強化
- 新たな商品や当社の持つ技術をアピールするため、展示会出展や学会での講演・発表等を積極展開中

■ 商材別売上高 (単位：百万円・■：前期 ■：今期)

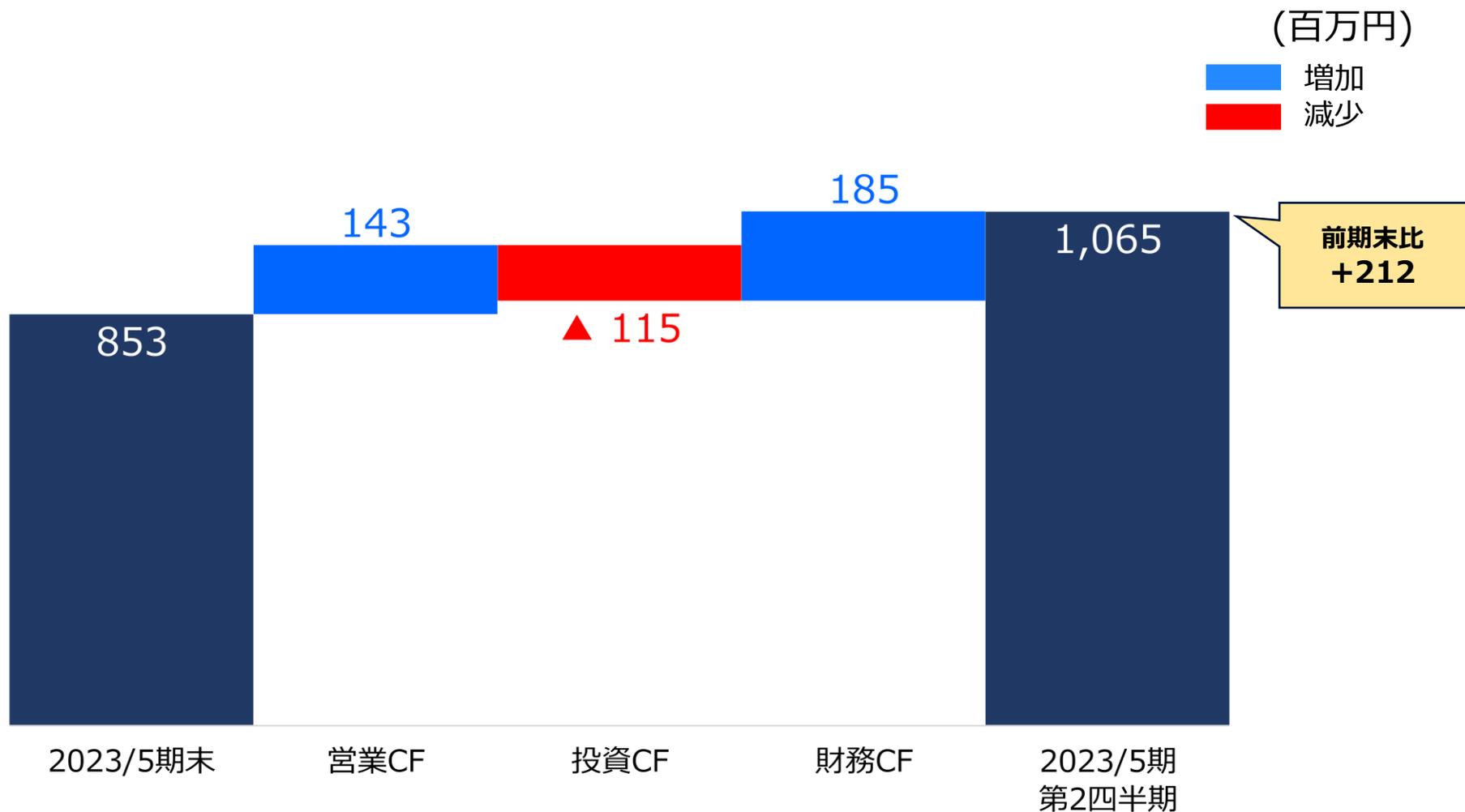


- 投資計画を見据えた財務戦略に基づき、借入金の長短バランスを調整
 (短期借入金：500百万円→100百万円、長期借入金*：1,068百万円→1,723百万円)
*1年内返済予定の長期借入金を含む



自己資本比率：38.9% (前期末比 +0.2pt)

- 医薬品工場の機械・設備導入やレイアウト変更などの設備投資を実施



取り組み状況・トピックス



医薬品事業

医薬品開発センター移転決定（和光→柏の葉）

- ・開発センターの移転契約済み。今期末に稼働を開始する予定
- ・占有スペースが大幅に拡張（139.5㎡→224.3㎡）
- ・東京支社や都心部の顧客へのアクセスが改善
- ・整った職場環境により、人材確保に好影響を見込む
- ・設備・環境・人材の充実により、研究開発を加速していく



医薬品事業

新製品生産対応に向けた医薬品工場の設備投資（アップデート情報）

- ・新規案件の本生産開始に向け、医薬品工場のレイアウト変更や機械設備の導入作業中
- ・総設備投資額 約2.5億円（2023年5期～2025年5月期）
- ・一部機械は導入が完了し、生産に使用開始
- ・現時点で具体化している案件で、2026年5月期以降に約3億円/年の売上を見込む
- ・拡充した設備を背景に、更なる生産品目増加に向け営業活動を強化中



化学品事業

高架橋度イオン交換樹脂 採用決定

- ・高架橋度イオン交換樹脂の販売が順調に伸長
- ・性能に対する評価が高く、発電所にて初めて採用決定
- ・全国の各地の発電所での採用に向けて活動中（推定市場規模：17～18億円/年）



化学品事業

耐熱性触媒用イオン交換樹脂 スケールアップ試験開始

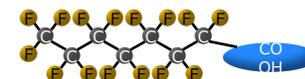
- ・海外の樹脂メーカーと共同で開発中の耐熱性触媒用イオン交換樹脂が本採用間近
- ・今期より、本採用に向けたスケールアップ試験に移行
結果が良好であれば本採用となり、2年後から1億円超/年の売上を見込む
- ・その他、複数の採用見込先にて積極的な活動を展開中



化学品事業

PFAS除去イオン交換樹脂 開発進行中

- ・長期試験および短鎖・長鎖PFASの吸着試験を実施中
- ・客先工場にて、製造工程で発生するPFASを除去する試験を開始予定
- ・結果良好であれば、PFAS排出の可能性のある国内各工場に拡販する
- ・自治体からも水道水源(河川・地下水)の浄化についての引合い多数



ペルフルオロオクタン酸 (PFOA)



ペルフルオロオクタンスルホン酸 (PFOS)

※PFASとは…有機フッ素化合物の総称。自然界で分解されず残存するため、人体への悪影響が懸念されている。

業績予想



- 第2四半期累計で売上・利益ともにやや進捗に遅れが生じたものの、通期の業績予想は据え置き

2024年5月期通期

業績予想の修正	無し	前期比
売上高	6,400百万円	101.7%
営業利益	400百万円	108.3%
経常利益	380百万円	108.3%
当期純利益	310百万円	121.0%
配当金	19.0円	
配当性向	24.2%	

中期経営計画の進捗状況



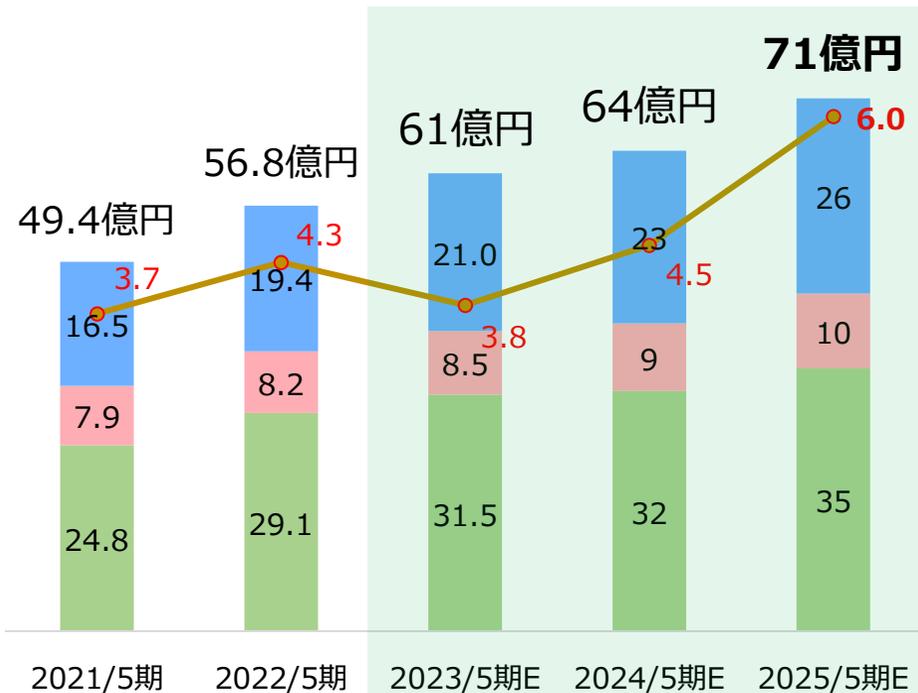
売上高：71億円
(対FY22：+25.0%)

営業利益：6億円
(対FY22：+37.2%)

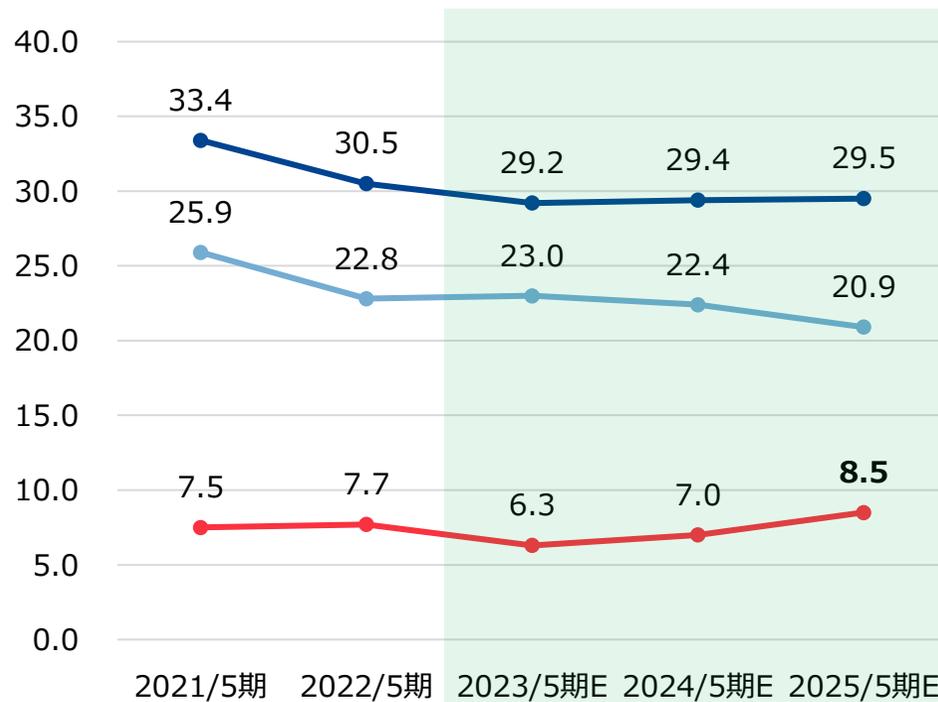
営業利益率：8.5%
(対FY22：+0.8P)

売上総利益率を維持しつつ、売上を伸ばすことで、営業利益増加を図る。

売上高・営業利益 計画（単位：億円）



各利益率 計画（単位：%）



■ 医薬品 売上高 ■ 健康食品 売上高 ■ 化学品 売上高 ● 営業利益

● 売上総利益率 ● 販管費率 ● 営業利益率

（医薬品）

- 輸入原薬の**横展開によるシェア拡大**
- **特異技術**による自社新製品の立上げ
- 治験薬の受託合成による**新薬開発サポート**
- 多拠点(欧州～東アジア)からの**調達ネットワーク構築**
- 新規海外調達先の**日本品質基準への対応サポート**

（化学品）

- 海外イオン交換樹脂メーカーとの**共同開発品の拡販**
 - 火力・原発向け**高架橋度イオン交換樹脂**
 - 半導体関連向け**高純度イオン交換樹脂**
- **競合の少ない特殊な液体処理**でのニーズ取込み

（健康食品）

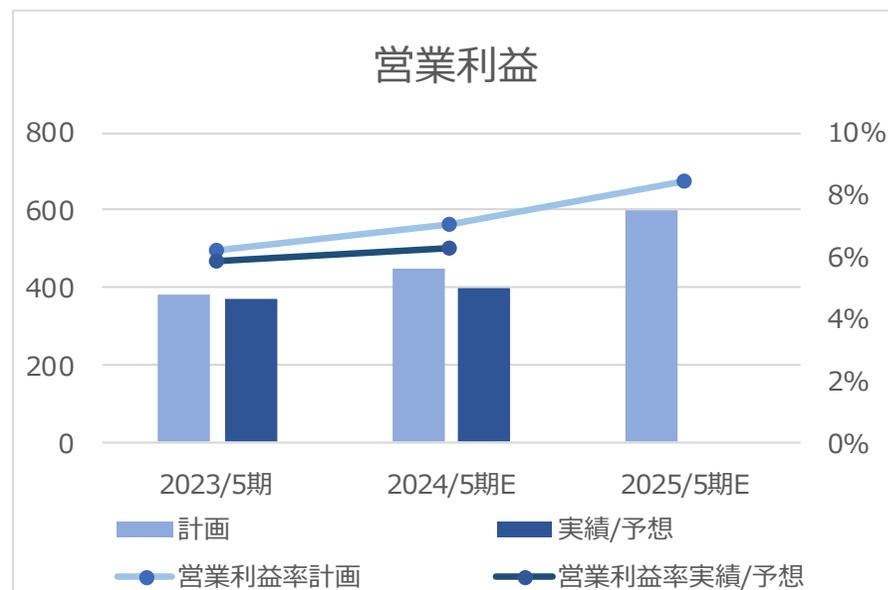
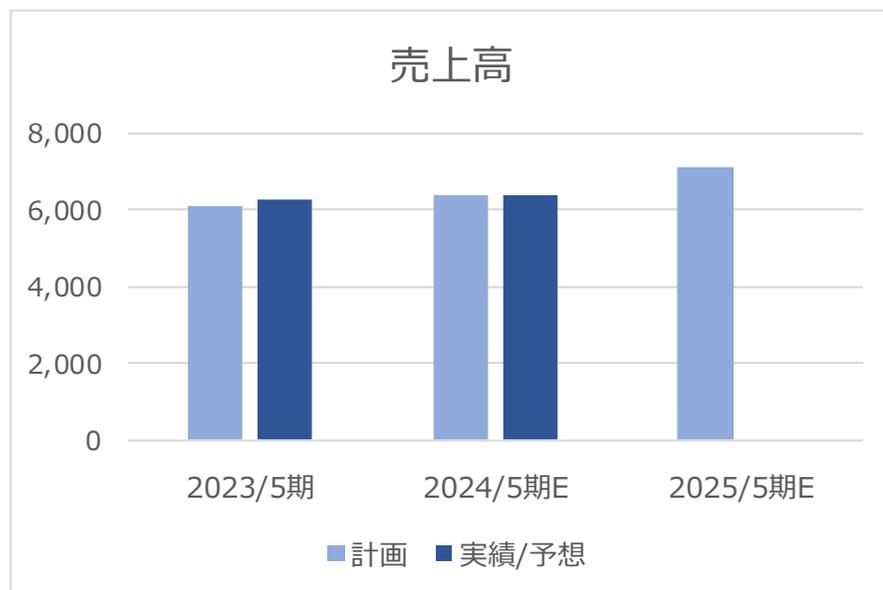
- **通販業者向けODM製品**の拡販
- **原材料メーカーとの協業**による顧客獲得
- **機能性表示に対応**した製品の企画・提案
- **高齢者向け製品**への応用加速
- 容量増に対応できる『**Tパウチ・ショット**』の拡販

（生産・品質・管理）

- 効率的な工場運営
 - 新規開発案件立ち上げに伴う製造ラインの最適化
 - 生産量増加に伴う**インフラ及び物流戦略**の再構築
 - 原価低減の取り組み
- 法令遵守体制の継続
- 抜け漏れのない品質管理体制の維持・強化
- より強固な文書管理体制の構築
- 人材の育成、職場環境の改善、従業員満足度の向上

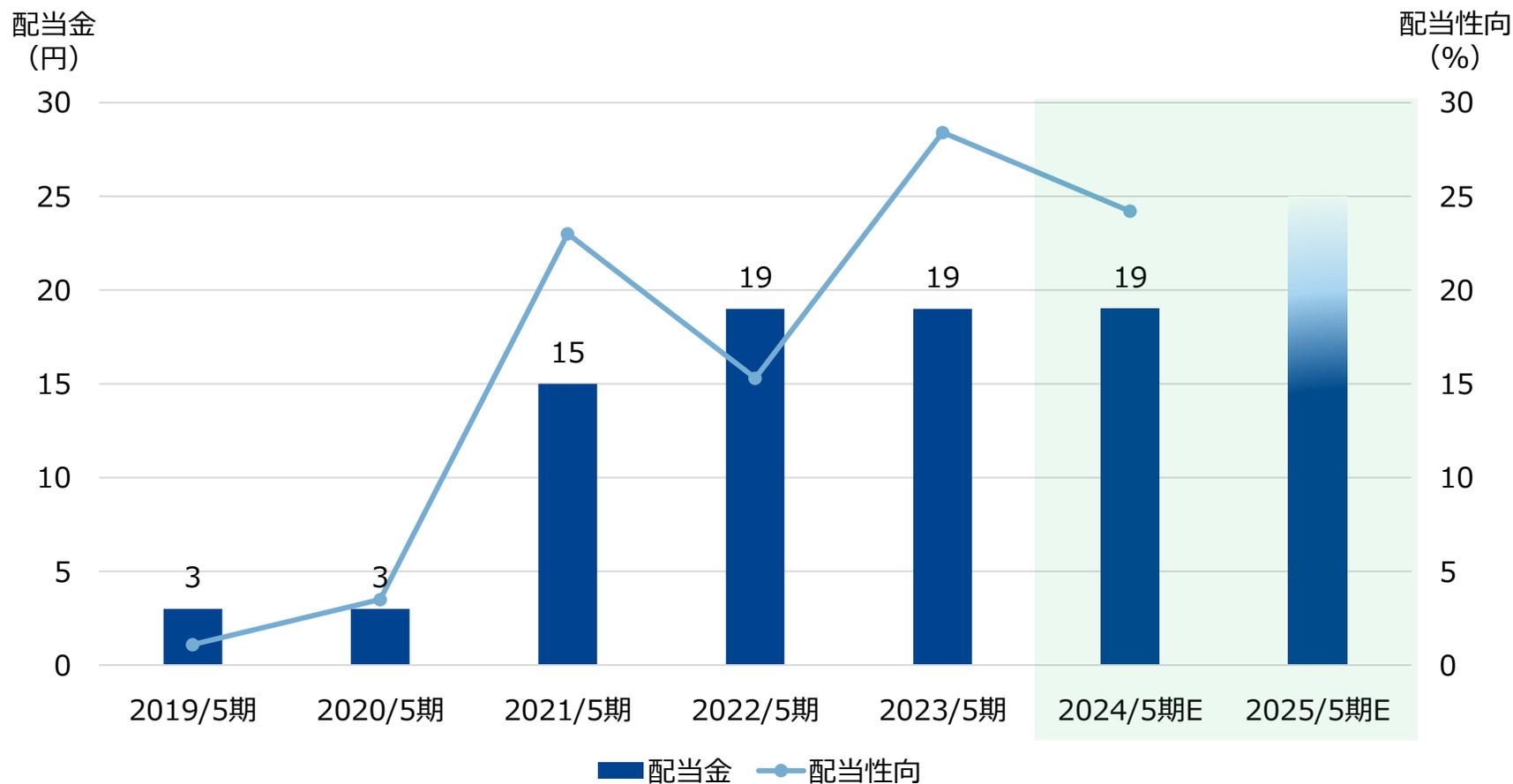
(百万円)

	2023/5期		2024/5期		2025/5期
	計画	実績	計画	業績予想	計画
売上高	6,100	6,291	6,400	6,400	7,100
営業利益	380	369	450	400	600
営業利益率	6.2%	5.9%	7.0%	6.3%	8.5%



安定配当を基本

～配当性向20%以上を目標に業績に応じた安定的な配当方針～



参考資料



明治期 福岡県須恵町において「須恵目薬」の製造・販売開始

1917年 福岡県直方市に「大洋製薬合資会社」を設立

1924年 福岡市東区に移転『天洋社』と改称

1938年 福岡市南区に移転。

1944年 戦時企業整備（県内の製薬会社を1社にする制度）により会社を解散し、一時廃業

1947年 戦後、「鉄ペプトン製薬有限会社」として再設立

1948年 販売会社として、「株式会社天洋社」を再設立

1950年 「株式会社天洋社」を「鉄ペプトン製薬有限会社」に合併し、社名を「天洋社薬品有限会社」とする。

1952年 社名を「天洋社薬品工業株式会社」と改称

1971年 ムロマチグループに参入

1996年 福岡県大牟田市に本社工場を新築移転

1998年 『室町ケミカル株式会社』に社名変更

1999年 医薬品第二工場を新設 ISO9001認証取得

2003年 本社隣接地に物流倉庫新設

2005年 『天洋社薬品株式会社』設立 東京支店開設

2006年 健康食品製造工場操業開始
表面処理工場操業開始

2009年 新事務所竣工

2010年 コンパウンド工場操業開始 表面処理事業より撤退

2010年 室町(上海)商貿有限公司設立

2011年 第三医薬品工場新設 尿素水工場操業開始
ムロマチテクノス株式会社より、つくば工場譲受

2013年 新勝立倉庫竣工
東京都千代田区神田駿河台に東京支店を移転

2014年 『東進ケミカル株式会社』の全株式を取得し
100%子会社化
ムロマチテクノス株式会社を吸収合併

2016年 つくば工場にインキ接着剤工場を新設
機能性樹脂コンパウンド事業より撤退
大牟田本社に医薬品ゼリー工場を新設

2017年 東進ケミカル株式会社を吸収合併
大牟田本社に医薬品合成工場を新設

2018年 天洋社薬品株式会社を吸収合併

2019年 埼玉工場を閉鎖

2020年 埼玉県和光市に埼玉開発センターを開設

2021年 東京証券取引所JASDAQ(スタンダード)市場に上場

長年培った技術を活かし、お客様の事業をサポートします。

医薬品 事業

メーカー機能と商社機能を併せ持ち、原薬に関わる様々なサービスを提供

品質と価格を満たす原薬を調達できる「商社機能」と医薬品製造の「メーカー機能」を併せ持ち、原薬に関するトータルサービス（輸入・製造・加工・分析）を提供します。

健康食品 事業

高度なマスキング技術で、求める“おいしさ”を具現化

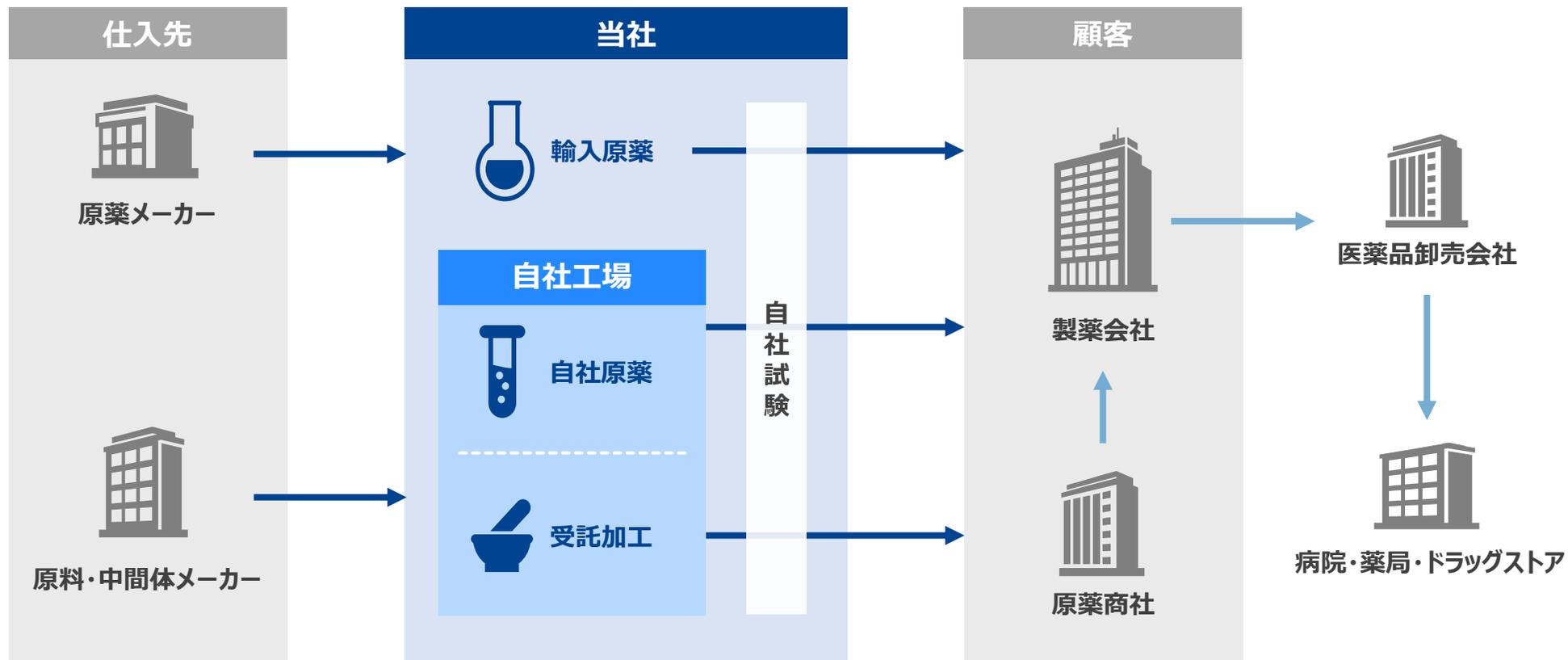
健康・美容成分には食べづらい味や匂いのももありますが、それらを包み隠す「マスキング技術」で、続けることが大切な健康食品にとって重要な「おいしさ」のご要望にお応えします。

化学品 事業

特殊な用途にも対応できる技術で液体処理の課題を解決

排水の処理や薬品の精製などの特殊な用途でも、豊富な製品ラインナップと長年培ってきたノウハウで最適な製品や処理方法をご提案します。

病院や薬局などで提供される医薬品は、有効成分となる「原薬」と様々な添加剤で出来ています。当社の医薬品事業では、この「原薬」の製造・販売を行っています。現在当社が取り扱っている原薬は、医療用医薬品* (ジェネリック医薬品*) 向けが主となっております。



* 医療用医薬品(医家向け医薬品)

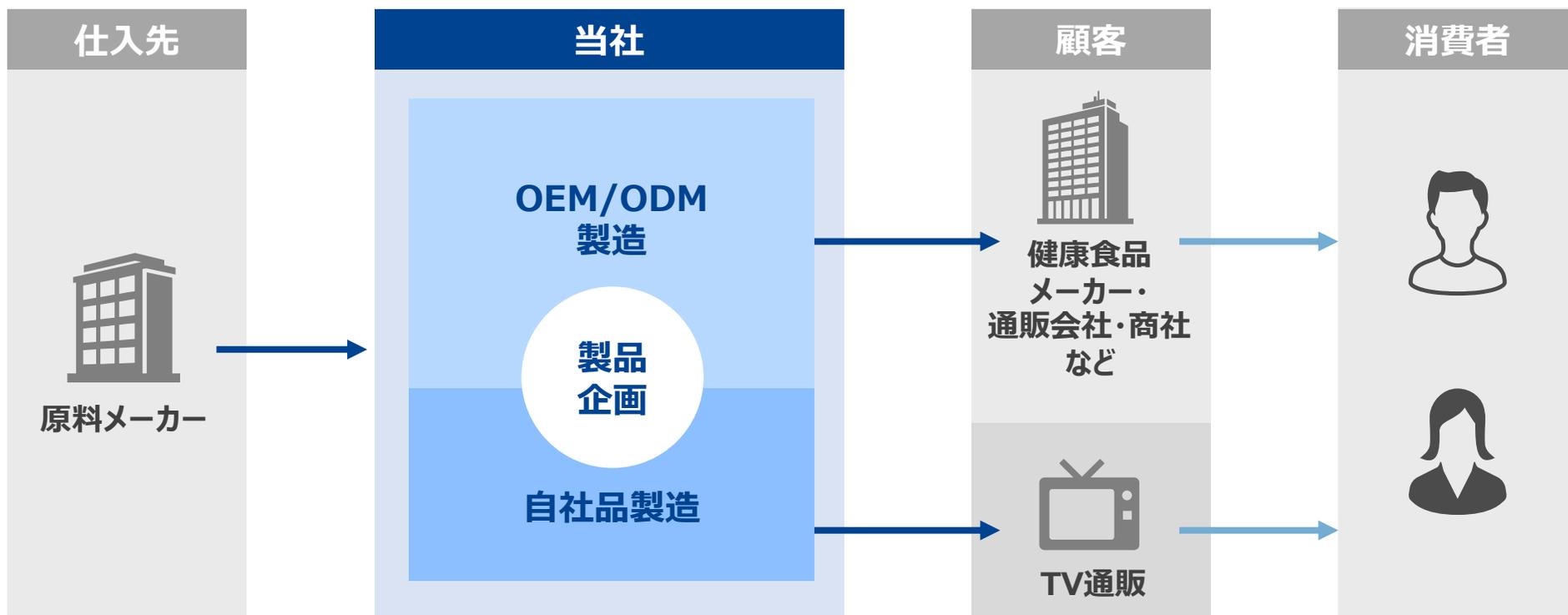
・・・病院で医師の診断をもとに処方してもらう薬のこと。対して、薬局等で購入できる薬を一般用医薬品(OTC薬品、市販薬)という。

* ジェネリック医薬品(後発医薬品)

・・・新薬(先発医薬品)の特許が切れた後、同じ有効成分を使って製造される薬。新薬に比べ開発費用が抑えられるため低価格で提供される。

健康食品には、錠剤、カプセル、粉体、ドリンクなど様々な形態がありますが、当社は、「スティックゼリー」タイプの健康食品の企画・製造を行っています。現在は、OEM・ODM*が主となっており、売上の8割を占めています。

スティックゼリーの健康食品は、おやつ感覚でおいしく、水が無くても摂取できる、携帯しやすい、などの特徴があります。



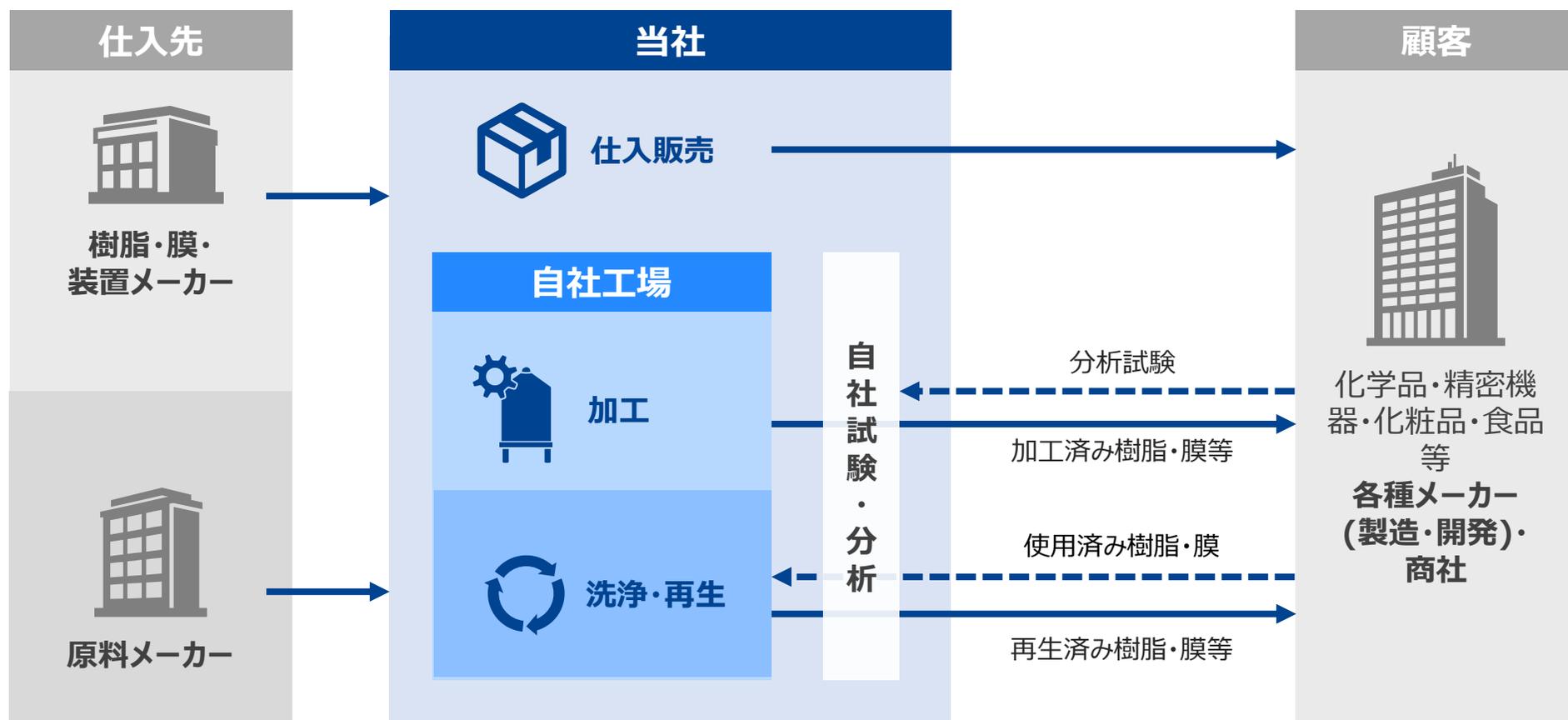
* ODM (Original Design Manufacturing)

…発注元企業のブランド名で販売される製品の、製造のみを行うOEM (Original Equipment Manufacturing) に対し、ODMは企画や設計、製造までを行う。

液体処理に使用される「イオン交換樹脂」や「分離膜」を取り扱っています。目的に適した製品の提案をするほか、使用に適するよう加工も行います。

様々な業界の製造や開発の現場で使用される純水や軟水の製造、薬品の精製、排水の処理など、活用される場面は多岐にわたります。

他に、接着剤やペーストなど機能材料の加工や販売をおこなっています。



∞ ひろがる、ケミカル。

 室町ケミカル株式会社

(東証スタンダード 証券コード：4885)

<https://www.muro-chem.co.jp/>

〈本資料に関するお問い合わせ先〉

室町ケミカル株式会社 経営企画室

E-mail : ir-kikaku@muro-chem.co.jp

〈本資料取扱上の注意点〉

本資料に記載されている将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、経営環境の変化等により、予告なしに変更される可能性があります。また、実際の業績等は様々な要因により変動する可能性があります。

掲載の内容については未監査の数値も含まれており、確度を保証するものではありません。また、掲載された情報やその誤りについて、その理由に関わらず、当社は一切責任を負うものではありません。

本資料は投資家の皆様に当社をご理解いただくことを目的として当社が作成したものであり、投資勧誘を目的にしたものではありません。投資に関するご決定は皆様ご自身のご判断で行うようお願いいたします。